

「アサリ収穫祭」について(捕捉説明)

2016.12.23 田中 克

2010年10月30日に柳川市で第1回目の(森里海連環による有明海再生シンポジウム)に参加された平方宣清さんから、畠山さんや私の講演の後に、フロアーからの意見を聞く場で、「先生方のお考えは、頭の中では分からることはないが、私たちは明日どう生きていたらよいのかめどが立たないところまで、追い込まれている。私たちがうみとともに生きていく道を教えて欲しい」との質問(問題提起)がありました。もちろん、それにまともに(具体的に)答えられるわけがありませんでした。

それをきっかけに、11月23日に、さいふや旅館で関係者(平方さん、その後のNPOスペラ立ち上げのメンバー、研究者ら)10名ほどが集まり、平方さんのアサリ漁場をお借りして、干潟再生実験を始める計画を立ち上げました。同時に、そのことも含めた有明海の再生を見据えた研究助成「瀕死の海、有明海の再生—森里海連環の視点と統合学による提言」を三井物産環境基金に行い、幸いにも3年間で2900万円ほどの助成を得ることができました。森里海連環の理念に合致した環境改良材としてのキレートマリン(鉄と竹炭、キレート材としてのかんきつ類の残渣などを混ぜ合わせて固めたもの:広島大学で特許がとられ、広島の日の丸テクノカーボン(株)より市販)を採用することになりました。2011年4月19日に、漁師や研究者だけでなく、造船所社長、映画監督、写真家、大学(院)生、旅館の女将さん、商店主など多様な職種の皆さんが「何とか、有明海を昔のように豊かな海に戻したい」との共通の思いで集まり、人の輪が有明海の干潟の再生につながるとの確信が得ることになりました。

それから糸余曲折があり(有明海再生の難しさを実感しながら、また、人の輪を若者に広げながら)ましたが、今日まで来ました。そのような積み重ねの上に、今日の新たな都市と地方を結ぶ、都市のシニアが地方の若者をささえる形の、新たな「自然学講座実験区」の設定ができ、その成果や今後の展開への理解を深めていただく機会として4月9日の「アサリ収穫祭」に参加いたしました。

アサリの潮干狩りだけなら明石周辺の浜でも体験できると思いますが、それとは全く趣旨の異なる潮干狩りであり、シニア自然大学校の有志の皆さんのが「自分ごと」として参加いただく点に大きな意味があります。自ら関わった干潟で成長した“本物”的アサリを、同じように直接間接にそのことに関わられた多くの皆さんとともに収穫し、同じ道を共有していただくことに意義があると考えています。

したがって、参加人数を増やすことより、少数精銳でも志のある皆さんに参加していただき、その動きを広めていただける基盤ができればと願っています。

第3回太良町アサリ収穫祭



2013.4.9(日)

●参加費 1500円
小学生以下無料

集合場所
三柱神社前 9時
水族館前 9時15分

各自準備品
長靴 熊手 網袋 バケツ
雨具

問い合わせ
SPERA事務局
0944-72-2424

スケジュール(バス参加者)

8:50 集合
9:00 出発
11:30 現地到着
昼食
12:00 潮干狩り開始
15:00 潮干狩り終了
収穫バーベキュー
17:00 終了解散
マイカーの方は現地集合

